

## 第9回 生駒市バリアフリー基本構想推進協議会会議録（要旨）

日 時 令和7年3月26日（水）10時00分から12時00分

場 所 生駒市役所 大会議室

出席者 （敬称略）

波床正敏、柳原崇男、山田耕三、藤田照子、田中康博、坂本剛伸、佐々木達也、  
大橋進、中南知也、本間直樹、畑弘治、水瀬剛史、細田武男、植谷秀夫、  
奥田幸司、小林弘幸、後藤治彦、米田尚起、荻原友貴、鎌田明年、坂谷操

（事務局）谷事業計画課長、山本課長補佐、林係員

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者数 5人

議 事

1. 開会

2. 協議事項

(1)生駒市バリアフリー特定事業計画 各事業の進捗共有について

(2)跨線横断歩道橋の整備事業について

3. その他

4. 閉会

配布資料

・次第

・資料

## 1. 開会

## 2. 協議事項

### (1) 生駒市バリアフリー特定事業計画 各事業の進捗共有について

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- 資料の P16、特定事業計画の P27 の生駒南小学校・中学校の特定事業について、私も学校の整備事業に関する説明会等に参加し、懸案事項である国道 308 号の拡幅や避難所として住民が利用するにあたっての防災機能の強化など地域住民の多くが希望していることを申し述べた。そのなかで、昨年の会議で配布された施設配置計画の案を見ていると、国道 308 号では敷地内歩道ということで歩道が学校の敷地内に整備されるかのような書き方や青山台側の道路では敷地後退という記載もされている。バリアフリーにも関わることかと思うので学校の整備事業と併せてご説明願いたい。

生駒市教育部 鎌田

- 生駒南小学校・中学校については資料の P16 に記載があるとおり、令和 6 年度から基本計画、基本設計、実施設計、工事という流れで進める予定であり、現在は基本計画の策定が完了している段階となっている。ご質問のことについては基本設計で決まっていくと思うので現時点では確定的ではないということでご理解いただきたいが、国道 308 号の拡幅についてセットバックを行うことができると考えている。また、北側の中学校側の入口では敷地後退するような表記がなされているが、こちらについても具体的には決まっている訳ではないということでご理解いただきたい。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- 優先度が高いのは国道 308 号ではないかと思うが、学校の敷地内に歩道を整備するという理解でよいか。敷地後退により国道 308 号の歩道が確保されるのが良いと思うが、生徒だけでなく一般の方も通ることができる歩道にする方がよいと考えている。

生駒市教育部 鎌田

- 今の計画のなかで確定している訳ではないが、北側、南側のそれぞれから登下校をするかたちになると思われるなか、南側からの登下校では事故のないように歩車を分離した空間を設けることができると考えている。学校の敷地外で学校の敷地と国道 308 号とが接する部分で地域の方にも喜んでいただけるような空間を設けることができると思う。
- なお、地域開放ということで、一般の方にも学校の運営に参加いただきたい趣旨はあるが、学内の通路を常時解放するとなると少し意味合いが異なると思うのでそこまでは想定していない。

柳原座長代理

- ・ 資料 P15 の完了写真②のところで、歩道がマウンドアップになっており構造的に段差解消ができないということで路側線の明示により歩行空間を創出しているとのことだが、今の状態では車椅子の方、ベビーカーを利用の方がこの空間を使うしかないなか自転車も通ることになるかと思う。そうなるとう自転車との錯綜があり、すれ違いの際には自転車利用の方はなぜここを車椅子、ベビーカーを利用の方が歩いているのだろうかとう理解が及ばない可能性が考えられ、自転車利用が優先ではないかと勘違いをしてしまい、ここを通らざるを得ない車椅子、ベビーカーを利用の方が車道の方に避けなければならないという状況も想定されるため、こうした方々が優先ということがわかる仕掛け(絵や色を塗る)を検討いただければと思う。
- ・ 教育啓発特定事業について、近年のバリアフリー化においては啓発事業を進めるべきとされており、全国的にも心のバリアフリーの推進というのは話題になっている。資料 P21 において、小中学校でたくさんの生徒に実施しているようだが小学校、中学校についてどのくらいの割合で実施しているのか。バリアフリーの教育は小学校では数多く実施されているが中学校になると減っているところもあるため、可能であれば小学校で実施し、中学校でも実施し、高校でも実施するというように連続的に実施することが効果的だと考えられる。
- ・ 認知症サポーター養成講座について回数を見ると活発に実施しているという印象だが、これと比較するとあいサポーター養成講座を受ける方の人数と差があるように思う。あいサポーター養成講座も令和 6 年度は 100 人程度の方に実施しており良いことだと思うが、認知症サポーター養成講座と比べると数が減っているので実施の仕方を教えてほしい。

事務局

- ・ 小中学校におけるバリアフリー教育については手話、点字、車椅子、アイマスクの体験等を実施いただいているのが主となる。市内の全校ではないかもしれないが中学校でも実施していると聞いている。

生駒市老人クラブ連合会 藤田氏

- ・ あいサポーター養成講座について、生駒市では平成の時代にかなり実施しているため近年では人数が少ないのだと思う。一般市民ではあるがかなりの方が既に受けていると思う。

柳原座長代理

- ・ 理解した。

## (2) 跨線横断歩道の整備事業について

### ○事務局からの説明の概要

#### 事務局

- ・ 昨年度開催した協議会で現在の構外地下通路の位置とほぼ同じ位置で跨線する案について実現の可能性を探っていく旨を共有し、技術的に成立するかをこの1年間で検討したところ概ね整備可能な案であることが整理できた。
- ・ 跨線橋の主な仕様について、有効幅員は通路部(跨線部)で3.5m、階段部で2.0m、付帯するエレベーターは駅西側が11人乗り貫通型、駅東側が15人乗り1方向型で計画している。エレベーターの大きさの差は1方向型での利用は、車椅子の方が中で回転することも想定されるため15人乗りとしている。また、屋根の付帯は車椅子の方の利用が見込まれる東西のエレベーターを結ぶ通路部で計画しており、階段部では計画していない。
- ・ 跨線橋の着床部について、駅東側は中央の交通島を一部撤去し車両動線を確保したうえで階段の着床により活用できなくなる歩行者空間の機能復旧を行う。駅西側はエレベーターの着床位置と地平駅舎のスロープ位置とを結ぶ空間が、現在、送迎の車が停車する場所となっているため、新たに駅舎を整備する位置よりも南側で送迎車を対象とした乗降帯の整備を検討している。これにより、エレベーターを利用される方が歩ける空間を整備できればと考えているとともに通学路の安全も一定確保できればと思うので、小瀬橋の東詰付近まで歩行者空間確保に関する協議を奈良県と行っている。駅西側の歩行者動線については検討中であるため図面等をお示しできないが、今日は整備にあたっての考え方を共有できればと思う。
- ・ 以前検討していた案の跨線位置と比較し、階段の有効幅員は1.5mから2.0mの確保が可能となった他、駅舎のバリアフリー化事業が跨線橋整備の事業よりも先に完了している必要があるため鉄道利用の利便性は早期に確保されることになる。
- ・ なお、設計業務が完了していないためパース図をお示しできないが、今日は進捗状況の共有ということで議論ができればと思う。

### ○説明に対する質疑応答

#### 生駒市身体障害者福祉会 山田氏

- ・ エレベーターの設置・利用について説明があったが、車椅子の方の移動手段は自動車(自車・介護車両)を利用する割合が多い。自身での移動による場合(手動・電動)は、通常前進で入り出るときは内部で方向転換せずそのまま後ろ下がりで行われるので参考にしてほしいと思う。ただ車椅子で外出をする際多くは介助者がおり単独での移動は稀だと思う。そのため(エレベーター運用は)車椅子移動の方のみではなく、障がいの有無に関係なく足が不自由な方や杖をつきながら歩行されているような移動が困難な方々への配慮もご検討いただければと思う。

#### 波床座長

- ・ 車椅子に対応したバリアフリー経路が整備されると、そうした方々へも対応できると考えているが、事務局の見解はどうか。

#### 事務局

- ・ 事務局の認識も相違はなく、例えばそうした方々への対応としてエレベーターのかご内や跨線橋の通路部、階段部において手すりの設置も計画している。また、ご意見について十分認識したうえで今後の検討も進めていきたい。

#### 波床座長

- ・ この駅の場合は駅舎も跨線橋もほぼ新規で作り変えるような状況なので、既存のバリアフリーの基準は準拠して整備すると認識している。その認識でよろしいか。

#### 近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ 足が不自由な方への配慮としては雨が降った際に路面が滑る可能性もあるため滑り止めに関することと、先ほど手すりの話もあったが両側手すりも併せて検討する。

#### 事務局

- ・ ご意見を踏まえた上で検討したいと思う。また、路面についてご意見をいただいたが、排水を上手く処理できるように計画する他、東側の着床部ではインターロッキングとなっているので、影響範囲の機能復旧時は見た目を大きく変えることなく、経年した際に段差等が生じないような計画にできればと考えている。

#### 波床座長

- ・ よろしくお願ひしたい。

#### 生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 昨年3月の協議会で駅構内の地下通路を廃止するか否かについては、跨線橋の計画と併せての計画になるため残すことは断言できないがトイレ利用等に配慮し、引き続き検討するとなったが結論はでたのか。また、残るとなれば地下改札口において仕切りが必要になると思うがどのようなようになるのか。
- ・ 跨線橋の階段の位置が決定したため改札口やスロープの整備をはじめ、駅のバリアフリー化に関する事業が行われると思うが、現時点の進捗状況、整備計画の詳細、今後の計画についてご説明をお願いしたい。工事が始まれば駅を利用しながら進むと思うので、安全性も含めてご説明願ひたい。

#### 近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ 駅構内の地下通路については、構外で市が計画している跨線橋の橋脚が整備されるためその計画と併せての検討となっているので、決めかねてはいるものの今は駅構内の通路は残す計画で検討している。
- ・ バリアフリー事業の進捗については、資料にも記載があったとおり令和7年度、8年度と進め、令和8年度末の完工を予定している。具体的には令和7年度に支障物の撤去関係の工事を行い、令和8年度は時期に多少のずれはあると思うが、上り下りの両側で整備工事に着手し、現在は令和8年度末の完工を目指して進めている。

#### 生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 利用者としては、いつ地上部から構内に直接入れるようになるのか、いつ現行の改札口から替わるのかという時期が知りたいと思うが、その時期の見通しはどうか。

近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ 現状では着手していない状況なため、具体的にこの日というのは見通しがたっていない。工事に着手すれば自然とわかってくると思うので、工程を管理しつつ事前に共有したいと思う。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 多機能トイレの設置も計画しているがオストメイト対応等、標準以上にしていきたいが、どこまでの設備になるのかをご説明願いたい。

近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ 多機能トイレについてはベビーベッドやオストメイト対応というのは整備する予定としている。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 東山駅の多機能トイレのようなものになるのか。

近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ そのようになると思う。新たに整備するものなので今の基準に適合した多機能トイレとなる。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ 跨線橋の計画について、当初より北へ移動したのか。
- ・ 駅西側の階段を降ろそうとしているスペースについて、感覚的には 4m 程度しかないと思うが何 10 年も使うものになるのももう少し西側で用地を確保して余裕をもてないものかと思う。
- ・ 通学路について、現状ではほとんど確保されていない状況となっているがどのように考えているのか。跨線橋整備だけではなく通学路も整備願いたい。
- ・ 駅西側の歩行者動線の検討図で車寄せを南側に整備し、横断歩道を計画しているようだが合計で横断歩道は駅前と理髪店前のを合わせて 3 箇所となるのか。
- ・ 跨線橋の屋根はどのように計画しているのか。

事務局

- ・ 現在ご利用いただいている駅構外の地下通路の幅員が新たに整備する跨線橋の幅員よりも狭いなか、駅構内の地下通路を残せる計画とするため構内外の壁面をコントロールポイントとしていることから見た目として北側にシフトしているように見えるかと思う。
- ・ 西側のスペースについては、駅構外の地下通路の階段を撤去し、この部分も活用しつつ跨線橋の着床部で歩ける空間やエレベーター、階段を整備するため前回までの案よりはスペースを確保できる計画となっている。現在駅のスロープがある場所に階段が整備されることとなり、着床部付近では新たに整備される駅のスロープと距離が近いため、少し圧迫感を感じるかもしれないが近接していることから利便性はよいと考えている。

- ・ 通学路についてはこの事業に併せて必要と考えており、今日確認いただいた動線を1案として検討、協議を進めている。近年では国道308号の一部箇所において一定の歩行者空間を確保いただいたが、このように少しでも安心して歩いていただける空間を確保する必要があると認識しているので、検討を進めたいと思う。
- ・ 横断歩道の位置については公安委員会とも協議を行っており、短い距離で連続して整備すると事故の懸念も高まることは聞いているため、仮に今日確認いただいた位置で横断歩道を整備するとなれば既存の横断歩道(2箇所とも)は廃止することになると思う。なお、今日確認いただいた絵については検討中のものであるため、今後、既存の横断歩道を廃止するとなれば改めて地元とも協議することになると思う。
- ・ 跨線橋への屋根の付帯について、エレベーターとエレベーターとを結ぶ通路部では計画しているが、階段部においては計画していない。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ 駅のスロープが整備される場所については特に狭いと思うが、通学路を整備するためにセットバックをするのか。

事務局

- ・ 現在検討を進めているが、国道168号の路側線より内側から新たに整備される駅のスロープとの間で1.5mの幅員で歩行者空間を確保できないかと検討をしている。幅員1.5mを確保できるかも含め、今日時点で具体的な絵はないため次回以降にお示しできるように進めたいと思う。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ 通学路についてはしっかりと確保をお願いしたい。
- ・ 今後は生駒南小学校・中学校が建て替えになる計画があり、小瀬の生徒も生駒南中学校へ通う可能性もあるが、どのように考えているのか。
- ・ また、生駒南小学校・中学校の建て替えが完了した後は正門が北側になると思われる。駅西側の道路について、跨線橋よりも北側も通学路として確保しなければならないと思うがどのように考えているのか。

事務局

- ・ 登下校の一時的な利用がどの程度となるかは確認したいと思うが、跨線橋の幅員としては現在の地下通路よりも広い3.5mを確保するため、概ね対応できると思う。駅西側の道路については横断後の河川側など確保できる場所では幅員を確保していくことになると思うが、その他では可能な限りの対応になるかと思う。
- ・ 駅西側の道路について、現在も地下通路より北側は幅員も狭く縦断勾配も厳しい状態になっていると思う。跨線橋を整備する際の話となるが、施工条件として駅構外の地下通路を廃止した後に着工という順序になるため、まずは改札口(駅舎)を地上に整備いただき新しい駅舎を使いながら工事を進めることから跨線橋をクレーンで架設する際は地下通路よりも北側から架けることになる。その際は、ご指摘いただいている歩道と隣接する側溝を傷めることや一部撤去することが想定されるため、工事後は影響復旧が必要になると思われるが、元の状態に戻すことは望ましくないと認識しているのでセミフラットで可能な限りの幅員が確保できないかと検討している。この部分と先ほどの南側の部分との検討が一連となるため協議等を進め、次回以降に何らかのかたちでお示しできればと思う。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ 計画はしているということで理解した。

生駒南小学校 PTA 佐々木氏

- ・ 駅西側の道路での歩道幅員 1.5m の確保について、これは道路と同じ面で白線により整備するのか、それとも段差をつけて車が乗り入れできないよう整備するのか。

事務局

- ・ 車が乗り入れできないかたちが望ましいと考えているため、その方向で検討している。現在送迎の車両が停車している場所が新たに整備する跨線橋のエレベーターと駅のスロープとを結ぶ空間となるため、歩者の空間を物理的に分離しないと同じことになってしまいかねないと懸念している。送迎の車両が停車する場所を新たに整備する乗降帯に転換いただきたいという思いもあるため、車が乗り入れできないかたちで検討を進めたい。

生駒南小学校 PTA 佐々木氏

- ・ 了解した。

公募市民 畑氏

- ・ 跨線橋の屋根はどのように計画しているのか。

事務局

- ・ エレベーターとエレベーターとを結ぶ通路部では車椅子の方の需要もあると考えられるため屋根の付帯を計画している。階段での屋根付帯について、技術的には不可能ではないが屋根自身の重みや風荷重等の影響もあるため、現在計画している基礎よりも大きなものとなることからこの現場では難しいと考えている。以前検討していた案では階段の有効幅員が 1.5m となっていたため、雨の日に傘を使うという需要が屋根を付帯しないことによってあるなか、1.5m の幅員で傘を使用した状態ですれ違うというのは余裕がないと考えられたため、階段部で 2.0m の幅員が確保できる計画がないのかと位置変更に係る検討に着手した経緯もある。この計画で進めることができればと考えている。

公募市民 畑氏

- ・ 階段にも屋根を整備してほしい。朝の挨拶運動をしているが、ピーク時には通勤の方や小学生がかなり利用しており、そのなかで傘を使用して階段を降りる、上がるというのは危険だと思う。技術的には十分可能と思うので検討をお願いしたい。
- ・ エレベーターについて、駅東側の 15 人乗りのエレベーターはかごの中に入って回転して改札口の方向に出るといった動線だと思う。町内に住んでいる人は駅ではなくロータリーの方へ出て自宅に帰ることになるがその通路はどのようにするのか。駅東側の階段の下は歩くことができるのか。

事務局

- ・ 跨線橋のエレベーターや改札口へ向かう動線としては階段の下を歩けるように計画している。1 番低い橋脚から着床部までの桁下空間はデッドスペースとなるが、メインの動線では活用できるように計画している。

生駒南のバリアフリー化を考える会 大橋氏

- ・ 階段の屋根について、仮に後から整備するとなれば費用のこともあるので、最初から整備する方がよいと思う。生駒南小学校・中学校の関係でせせらぎ前に通学路が変わる可能性もあるので、駅前では歩行者動線が輻輳するのではないかと考えられる。朝の時間帯も今は 60 人ぐらいの小中学生が地下通路を利用しているので、傘を使用して階段を歩くと考えれば安全面においても有利だと思う。
- ・ 乗降帯エリアを新設されるということだが、それは交番があった辺りに整備されるのか。また、駅周辺に駐輪場が 2 つあるがこれは現状どおりとなるのか、それとも駅周辺の改良に伴って整備される予定はあるのか。

事務局

- ・ 乗降帯について、跨線橋の昇降機設備(階段、エレベーター)や地平駅舎の計画位置を踏まえた際にスペースの関係からも交番の跡地付近が適切かと考えた。検討にあたっては、ピーク時と考えられる時間において通過交通や一時停車の車両の状況を簡単に調査しており、鉄道を利用される方の送迎重要が多いと認識しているので駅舎の南側(交番の跡地付近)を整備位置として検討している。
- ・ 現在駐輪場は駅の南東と北西にそれぞれ 1 箇所ずつあり、北西側の駐輪場については跨線橋を整備するにあたって施工ヤードとして一時的に移設する可能性はあるが、その際は今の場所に復旧することが基本になると思うので現状と変わらない予定をしている。このことについても施工計画を検討するなかで詳細を詰めたい。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ 階段の幅員は何 m で考えているのか。

事務局

- ・ 傘を使用して離合できる幅ということで、有効 2m の幅員を考えている。
- ・ 屋根の議論ともなるが、鉄道駅を利用される方はおおよそ 5,000 人程度で健常な方は東西どちらかの改札口から駅構内へ入り、構内の地下通路を使うことになると想定される。以前調査した結果では駅を利用せずに東西を通り抜ける需要は 1 日あたり 100 人程度であるため混雑することは考えにくく、傘を使用した状態でも離合は可能と想定している。屋根を付帯するとなれば費用がかかることになるが、そうした需要も勘案して屋根を付帯しない仕様を計画している。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ 小瀬橋の歩道は 1m 程度の幅員なため傘を使用することや普通に対向することが難しいので 2m あればよいかと考えられる。

波床座長

- ・ 概ね大人用の傘は直径が 65cm~70cm 程度と思うので、2 人が並んでも 1.5m 程度ということですれ違いは可能と思う。

小瀬町自治会 田中氏

- ・ この計画でほぼ決定なのか。地域住民に対して完成の時期やイメージ等について周知や案内が今のところはないがどのように考えているのか。

波床座長

- ・ 地域へのご案内については計画が定まってから周知するのが常で、この会議が計画を定めるためのものなのでまだ決まっていなかつたかと思うが事務局の見解はどうか。

事務局

- ・ 今は計画内容をお見せできる状況にはなく、駅と南コミュニティセンターせせらぎでのパネル展示で令和 9 年度末の供用開始を目指して進めていることを周知している。詳細設計業務のなかでイメージパースの作成も考えているためまずはこうした会議で共有させていただき、その後、地元への周知も検討したいと考えている。

南地区自治連合会 坂本氏

- ・ この会議で全てが決まってから住民に説明というのはリスクが高いと思う。この事業は住民の生活、交通手段に関わることで、この会議でもさまざまな意見が出ているなか、住民に説明をする段階でこのように決まるとリリースすることがよいものなのかを検討すべきだと思う。生駒市の他事業でもこうした会議とは別に並行して地域住民に進捗状況を説明し、そこでの意見も加味するという手法で進めていた事業もあった。なかには全て決まってから説明してほしいという意見もあったが、途中の進捗状況を聞き、そこで意見し、自身の疑問を解消したうえで事業が完了すると地域の方の喜びは大きいと思われる。進め方については今一度検討願いたい。

波床座長

- ・ 多くの住民の方が出席されても議論が進むとは考えにくいので、関係する各団体の代表の方に議論いただいている。その団体の代表として意見を述べていただくために出席いただいているため、住民の方から発言があると思われる意見を代表として発言いただきたい。事務局の見解はどうか。

事務局

- ・ こうした会議についてはそうした思いで進めているが、計画中の案でも地元のご協力なしには事業が進められないところや工事中にご負担をおかけする範囲が明らかになりつつあると認識している。そうした方々に対しては個別にご説明させていただきお時間を設けていきたいと考えている他、進捗のなかで地元の方々への説明も必要と認識しているので配慮しつつ進めていきたいと考えている。

南地区自治連合会 坂本氏

- ・ 今回の会議でさまざま要望や意見が出たと思うがそれに対する回答として、技術的にできないのか、予算的にできないのかの説明が不足していると感じた。技術的にできないことについては仕方ないことだと思うが、現実問題として予算面からできないことも多々あると思う。今日は予算面に関する説明がなかったので予算面も加味した回答をお願いできればと思う。
- ・ また確認となるが、2 年前の会議では現場も見たうえで整備にあたって 3 つのエリアが候補にあるなかで中央エリアでの整備が効果的と説明があった。その後、1 年前の会議では工事中に利用者が不便を感じるということから中央エリアでの整備より北側に移動する案を検討すると説明があった。そして今日の会議では既にこの案で決まり、メリットを説明していると感じているが 2 年前の会議では中央エリアでの整備が 1 番良いとされていたと思う。これに至るプロセスを説明願いたい。

## 事務局

- ・ 2年前の会議においては、本日説明を行った計画よりも南側の中央エリアでの整備が改札口との動線を主に利便性を考えた際には有利な案と説明させていただいた。しかしながら、中央エリアでの整備においては階段の幅員が1.5mしか確保できないという課題や駅のバリアフリー化事業が跨線橋整備より後になるため事業の完了時期が遅れるといったデメリットがあったことから、設計業務の最後のプロセスにあたる詳細設計業務の着手前にこうした課題を軽減できる案はないものかと考え、1年前の会議で駅構外の地下通路の位置付近で整備する案を検討すると説明させていただいた。その会議のなかで、現在の地下通路の位置で整備することになるため跨線橋が整備されるまでの間は南側の踏切に迂回いただかなければならないという工事中のデメリットについては触れさせていただいたが、完成後を見た際には最適案ではないかと思われるためまずは技術的に整備可能な案かを検証させていただくと説明し、今日を迎えたと認識している。この計画に至った経緯として階段の幅員や事業の完了時期といった2つの課題があったと認識している。

## 3. その他

### ○一分駅のバリアフリー化について

南地区自治連合会 坂本氏

- ・ 一分駅のバリアフリー化について、前回の会議で目に見えた進捗がないと回答されていたが1年が経過し、進捗等はあったのか。

近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ 現在も一分駅のバリアフリー化事業にあたっては地権者の方と協議をしているが、今のところ進捗はないといった状況にある。

南地区自治連合会 坂本氏

- ・ 市の方で自治連合会と理事者との懇談会が開催された際に一分駅のバリアフリー化についてお願いをした。その際に、近鉄の事業ではあるが市も連携して課題を解決していくという前向きな回答をいただいたため質問させていただいたが現状では全く進捗していないという理解でよいか。

近畿日本鉄道株式会社 本間氏

- ・ 担当からは地権者の方と協議をしていると聞いており、主だった進捗はない状況となっている。

生駒市建設部 米田

- ・ 一分駅のバリアフリー化について硬直している状況にはあるが、他にも手法がないものかと常々市も近鉄と協議をしており、全く進捗がないという状況にはないのでその点をご理解いただきたい。

## 4. 閉会

以上